

親として 子として

チューリップのメインストリート(詳しくは覚えていませんが)にあるデパートで、レゴブロックの電車を買ってもらいました。

「日本人に買えるような値段じゃないわよ」と店員さんにバカにされた母が、「なら買うわよ」といったノリで買ってくれたと後に聞いた覚えがあります。何両かの電車でしたが、今は、こわれた先頭車両だけ私の手元にあります。

まだ六甲アイランドが空き地ばかりだった頃に父が作ったラジコン飛行機を飛ばしに行きました。当然、まともに操縦できるわけもなく、数回のフライトで大破したけれど…。

何故か鮮明にその頃の事を覚えています。

新神戸トンネルを裏六甲側に抜け、しばらく行くと千年屋という施設がありました。その横を流れる川には、たくさんの魚がいて、水もきれいでした。釣りをしたり泳いだり…。帰りは決まってパニラアイスを食べました。ある時から、ダム

の関係でしょうか、川の流れがかわってしまい行かなくなりました。とても楽しい場所だっただけに、残念な気持ちになった事を覚えています。

自宅のガレージにテントを張り、そこで寝た事が何度ありました。結局、トイレに行ったり、食べ物を取りに家

の中に入るのだけれど、日常とは違う面白さやワクワク感がありましたね。

断片的な記憶は今でも自分の中に残っていて、無意識のうちに今は自分の子供と似たような体験をしています。時代が違うので内容はだいぶ違うと思うけれど、私が子供の頃に楽しい、面白いと思った事、親にやってもらって嬉しかった事を今は自然と自分の子供に提案し、一緒に体験しているのだと思っています。

子供は親の背中をみて育つという言葉はあまりにも有名人で子供の頃にすでに知っていました。ですが、その言葉の意味は理解出来ず、結局親になって初めて「あ、そう言えばそうやな」と無理なく理解できたと思っています。

これからも、親として大人として自分が体験した様々な事を押しつけてではない程度に子供達に見せていきたいと常々考えています。

お父さん、お母さん…、お子様は皆様を想像以上によく見えています。色々なことを体験させてあげて下さいね。

つづく

小野 英一

